

2020年3月期 第2四半期 決算説明会



Yaris

トヨタ自動車株式会社
2019年11月7日

将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し等の将来に関する記述が含まれております。

これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆ 日本、北米、欧州、アジアおよび当社が営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争環境
- ◆ 為替相場(主として日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル、ロシア・ルーブル、加ドルおよび英国ポンドの相場)、株価および金利の変動
- ◆ 金融市場における資金調達環境の変動および金融サービスにおける競争激化
- ◆ 効果的な販売・流通を実施する当社の能力
- ◆ 経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率の実現と設備投資を実施する当社の能力
- ◆ 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制および政府政策の変更で、特にリコール等改善措置を含む安全性、貿易、環境保全、自動車排出ガス、燃費効率の面などにおいて当社の自動車事業に影響を与えるもの、または現在・将来の訴訟やその他の法的手続きの結果を含めた当社のその他の営業活動に影響を与える法律、規制および政府政策の変更など
- ◆ 当社が営業活動を行っている市場内における政治的および経済的な不安定さ
- ◆ タイムリーに顧客のニーズに対応した新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにする当社の能力
- ◆ ブランド・イメージの毀損
- ◆ 仕入先への部品供給の依存
- ◆ 原材料価格の上昇
- ◆ デジタル情報技術への依存
- ◆ 当社が材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、電力・交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中断されたり、困難である状況など
- ◆ 生産および販売面への影響を含む、自然災害による様々な影響

以上の要素およびその他の変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

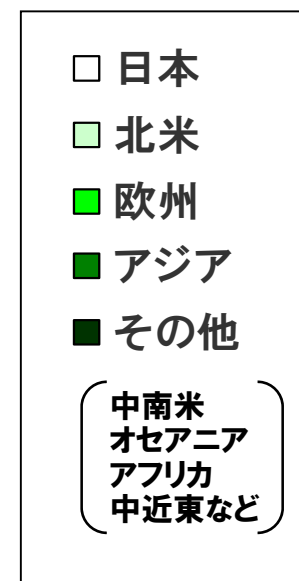
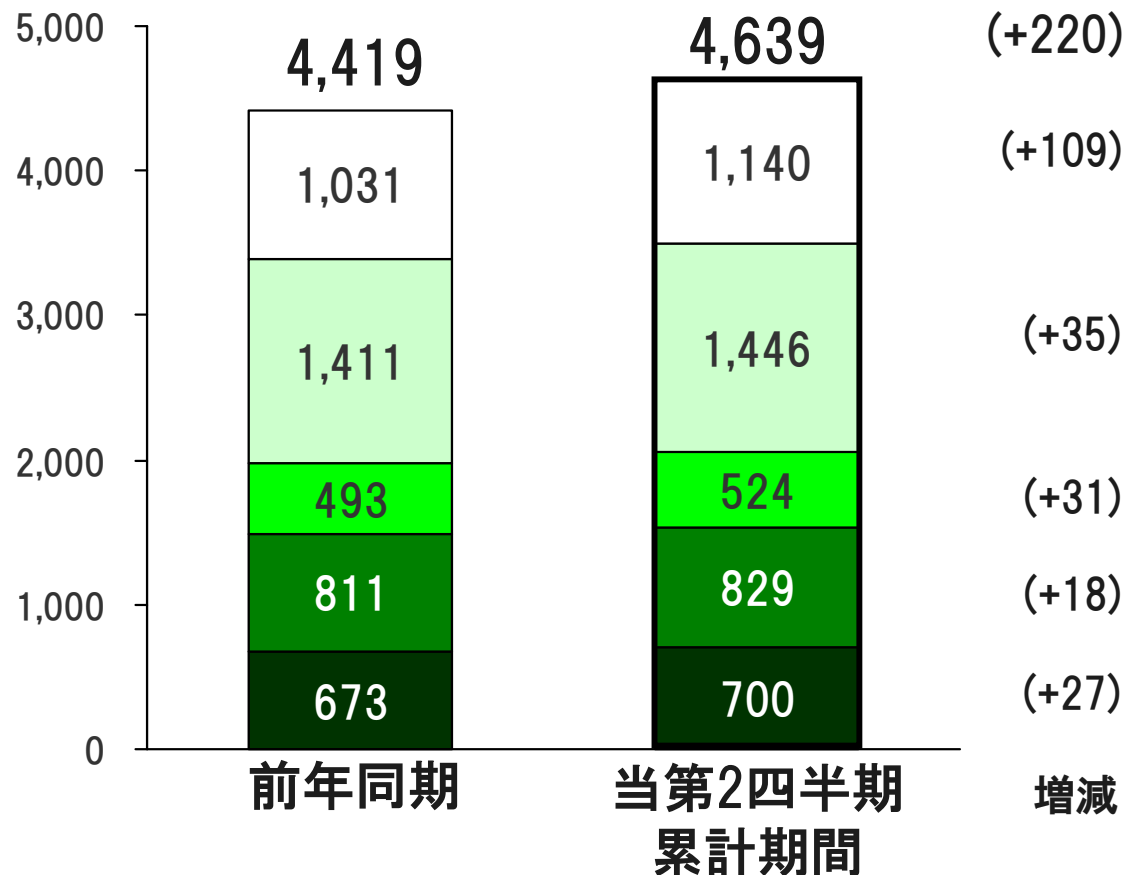
インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。

同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービス)により掲載された時点をもって「公表」されたものとみなされます。

連結販売台数 (6ヶ月累計)

(単位:千台)



<ご参考>

	('18/4-9)	('19/4-9)	増減
グループ総販売台数 (小売)	5,293	5,454	+161

連結決算要約（6ヶ月累計）

（単位：億円）	当第2四半期 累計期間 （'19/4-9）	前年同期 （'18/4-9）	増減	
売上高	152,855	146,740	+6,115	
営業利益	14,043	12,618	+1,424	
営業利益率	9.2%	8.6%		
営業外損益	1,791	2,869	△1,078	
税引前利益	15,834	15,488	+346	
持分法投資損益 *1	2,059	2,225	△166	
当期純利益 *2,3	12,749	12,423	+325	
〈ご参考〉特定要因(*3)除き	11,612	11,570	+42	
当期純利益率	8.3%	8.5%		
為替 レート	米ドル ユーロ	109円 121円	110円 130円	1円円高 9円円高

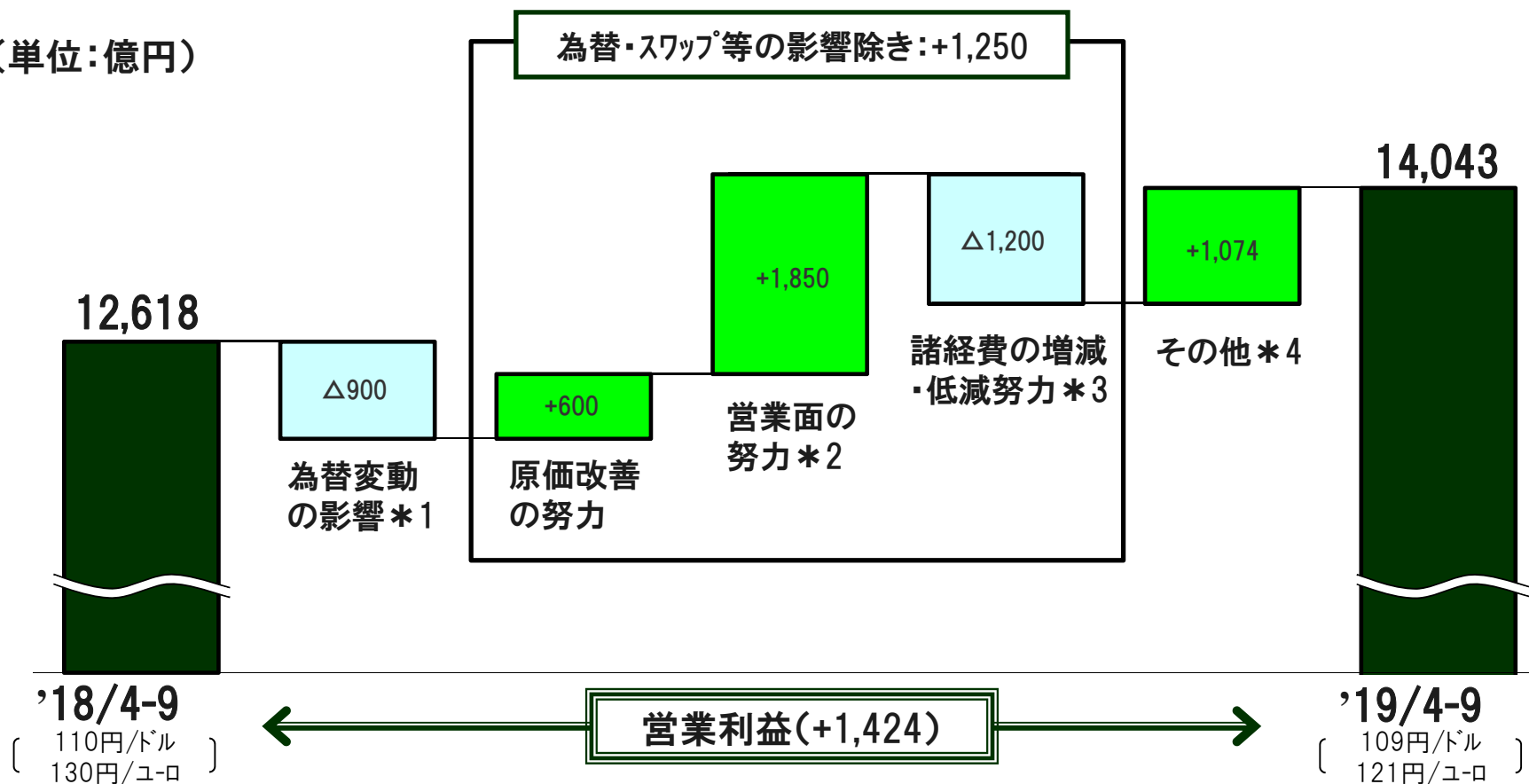
*1 うち、日本1,303(前年同期比△181)、中国615(同+35)、その他141(同△20)〔'19/4-9〕

*2 当社株主に帰属する当期純利益

*3 未実現持分証券評価損益が純利益に与えた影響1,137億円〔'19/4-9〕、853億円〔'18/4-9〕

連結営業利益増減要因 (6ヶ月累計)

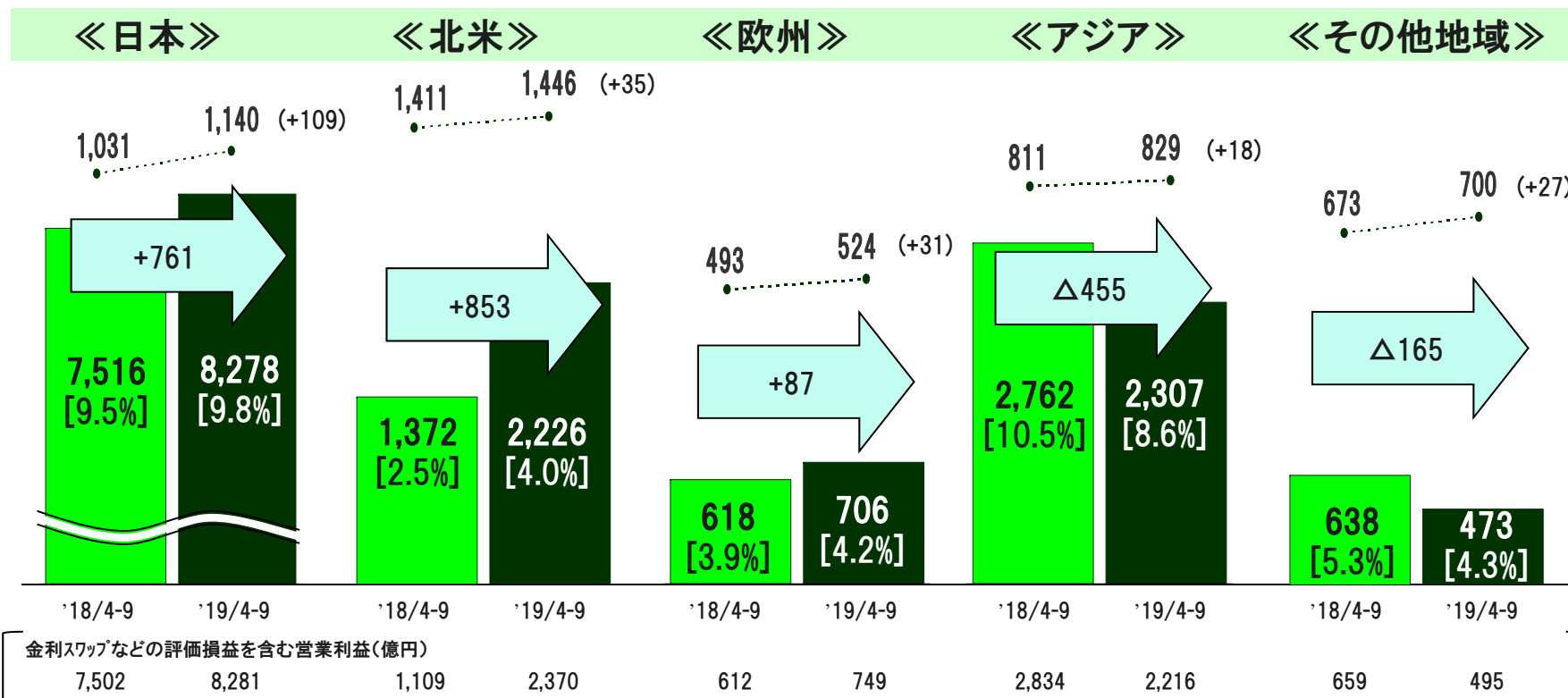
(単位:億円)



*1.内訳		*2.内訳		*3.内訳		*4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	△1,600	海外子会社の	△200	労務費	△350	スワップ評価損益ほか	+268
-米ドル	△400	営業利益換算差		減価償却費	±0	減価償却方法変更	+806
-ユーロ	△300	その他	+900	研究開発費	△600		
-その他通貨	△900	(外貨建引当の期末換算差ほか)		経費ほか	△250		

所在地別営業利益 (6ヶ月累計)

■ 営業利益(億円) <金利スワップ取引などの評価損益を除く> [] 営業利益率 連結販売台数(千台)

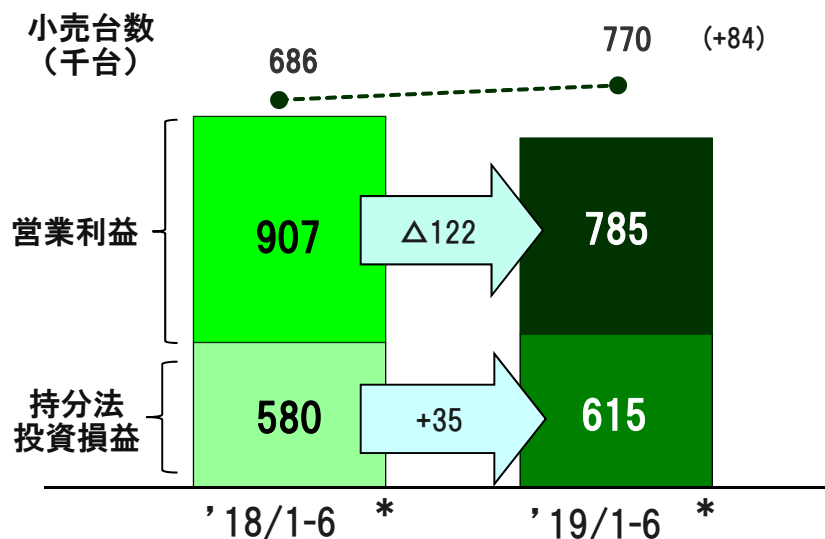


日本	(前年同期比+761億円)	営業面の努力等により増益
北米	(前年同期比+853億円)	営業面の努力、諸経費の低減等により増益
欧州	(前年同期比+87億円)	営業面の努力等により増益
アジア	(前年同期比△455億円)	為替変動の影響等により減益
その他地域	(前年同期比△165億円)	為替変動の影響等により減益

中国事業/金融セグメント (6ヶ月累計)

《中国事業の状況(ご参考)》

■ 中国連結子会社 営業利益(億円)
■ 中国持分法適用会社 持分法投資損益(億円)

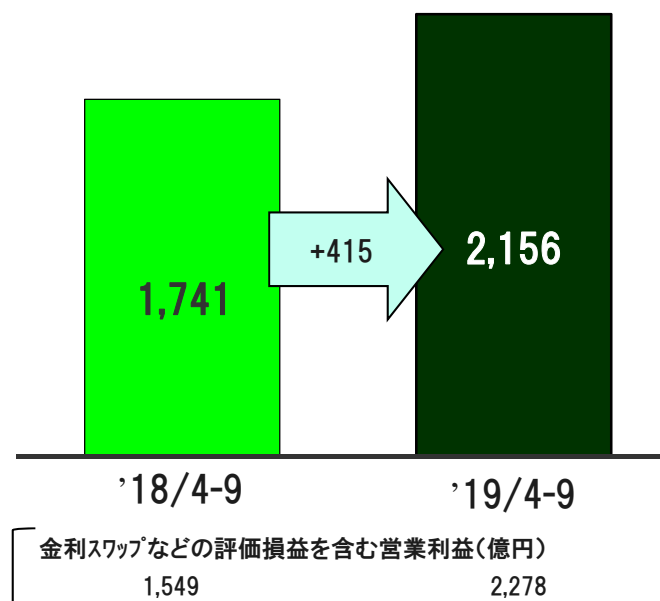


* 中国の会社は12月決算
1-6月の数値を第2四半期の連結決算に取り込み

- ◇ 営業利益(前年同期比Δ122億円)
・為替変動の影響等により減益
- ◇ 持分法投資損益(前年同期比+35億円)
・営業面の努力等により増益

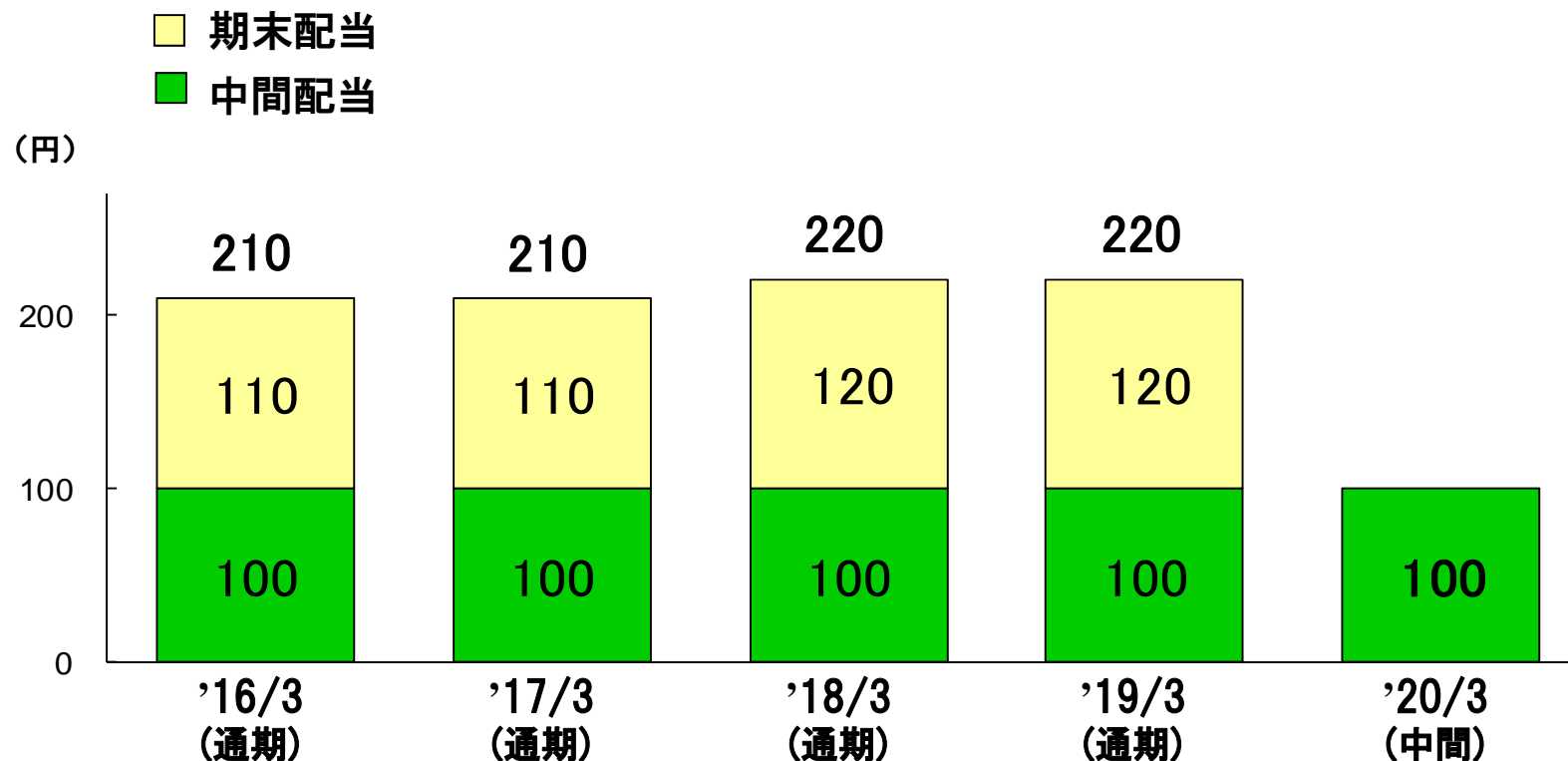
《金融セグメント》

■ 営業利益(億円) <金利スワップ取引などの評価損益を除く>



- ◇ 営業利益 (前年同期比 +415億円)
・融資残高の増加や、残価コストの減少等により増益

株主還元：配当金



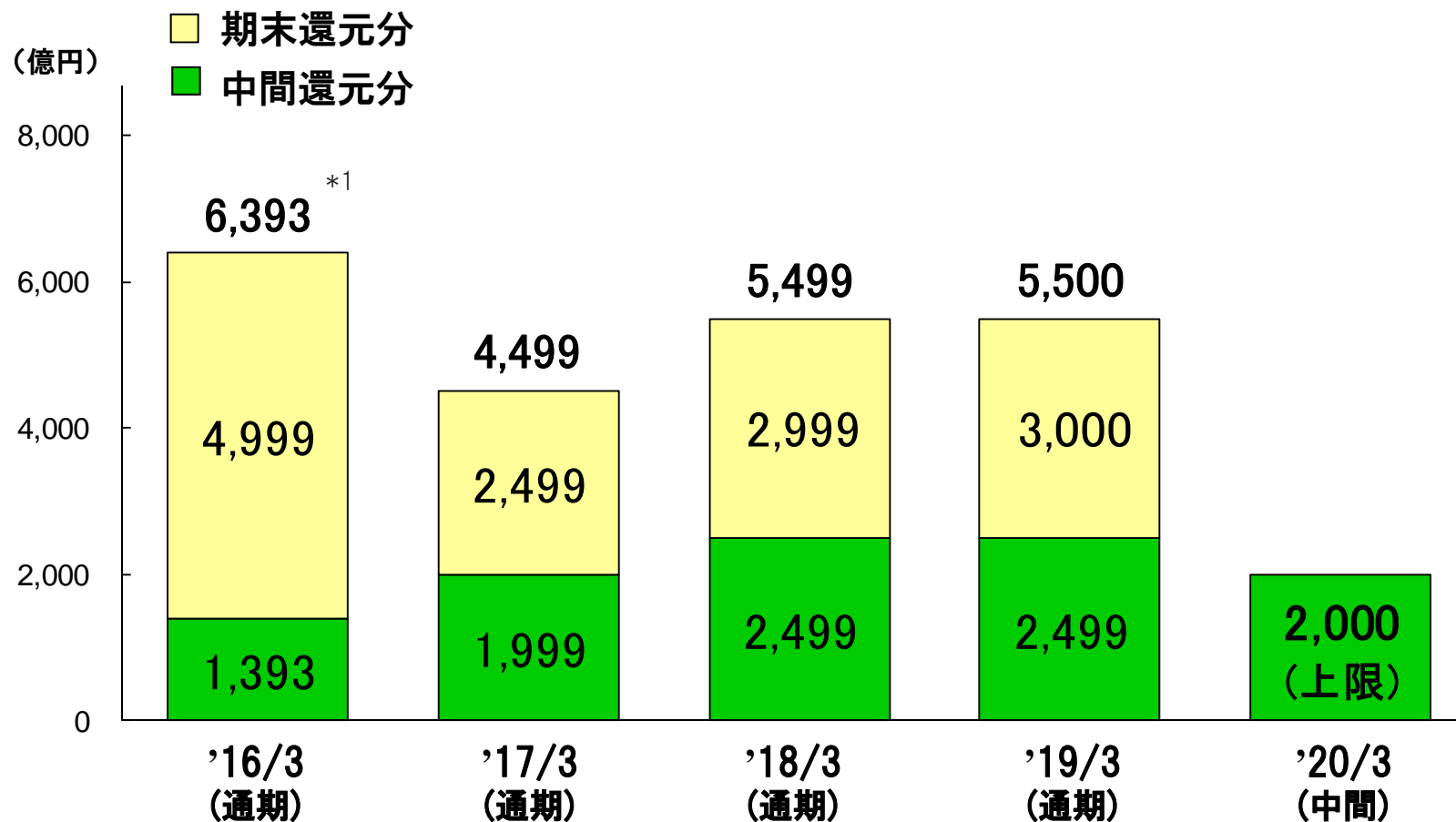
	'16/3 (通期)	'17/3 (通期)	'18/3 (通期)	'19/3 (通期)	'20/3 (中間)
配当総額 (億円)	6,455	6,275	6,426	6,268	2,789 ^{*1}
中間配当性向 ^{*2}	25.0%	32.1%	27.8%	23.4%	22.2%
年間配当性向 ^{*3}	28.3%	34.6%	26.1%	33.8%	未定

*1 当中間期の配当総額

*2 中間配当性向 = 1株当たり中間配当金 ÷ 1株当たり当社普通株主に帰属する中間期純利益

*3 年間配当性向 = 1株当たり配当金 ÷ 1株当たり当社普通株主に帰属する当期純利益

株主還元：自己株式取得



総還元額*2 (億円)	12,872	10,824	12,001	11,868	4,851 ^{*3} (上限)
-------------	--------	--------	--------	--------	--------------------------

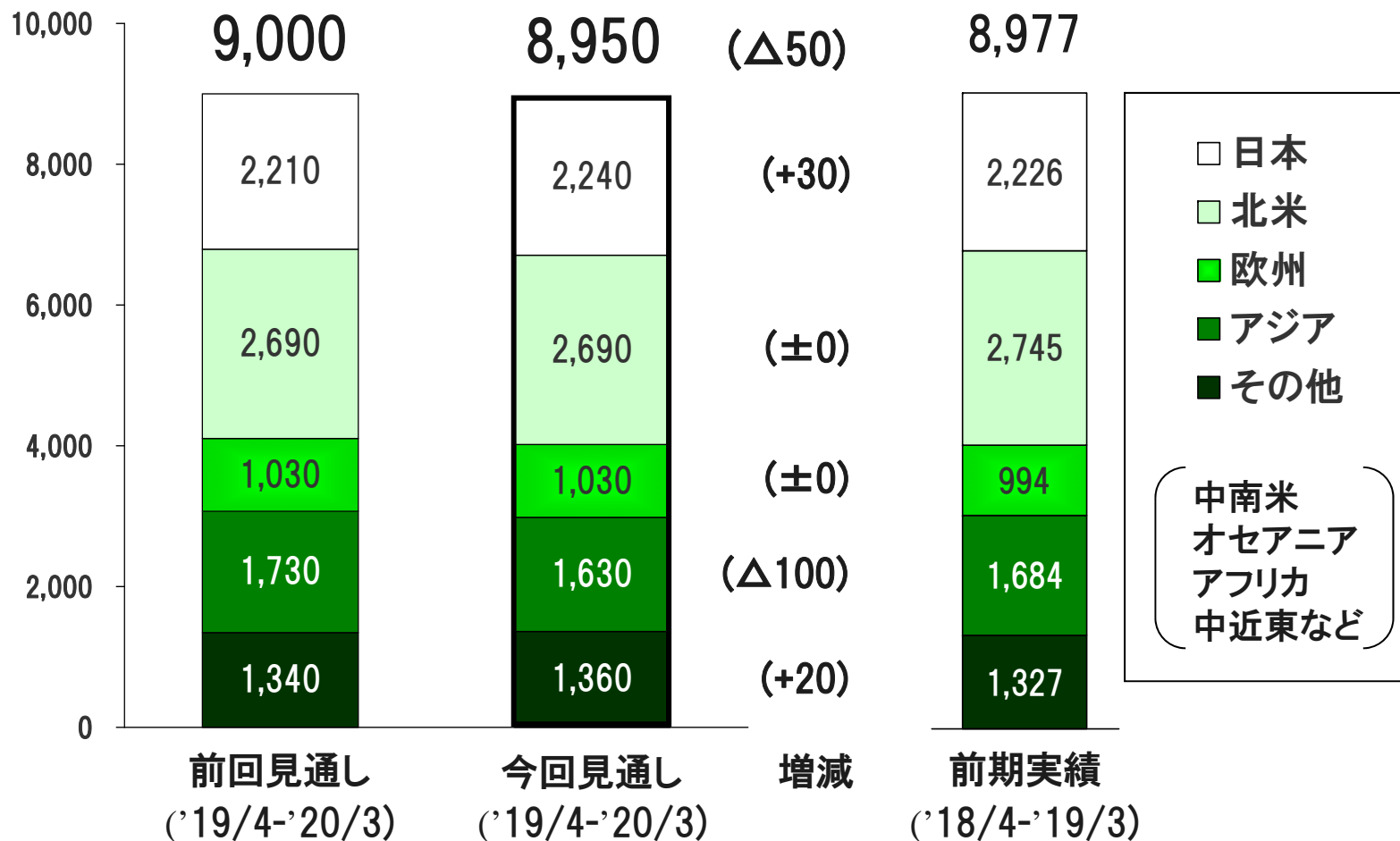
*1 第1回AA型種類株式発行による希薄化回避分3,499億円を除く

*2 第1回AA型種類株式への配当を含む

*3 当中間期の総還元額

連結販売台数見通し

(単位:千台)



<ご参考>

グループ総販売台数 (小売)	10,730	10,700	△30	10,603
-------------------	--------	--------	-----	--------

連結決算見通し要約

(単位:億円)			今回見通し (’19/4-’20/3)	前回見通し (’19/4-’20/3)	増減	前期実績 (’18/4-’19/3)
売上高			295,000	295,000	±0	302,256
営業利益			24,000	24,000	±0	24,675
営業利益率			8.1%	8.1%		8.2%
税引前利益			26,300	25,600	+ 700	22,854
持分法投資損益			3,700	4,000	△ 300	3,600
当期純利益 *1,2			21,500	21,500	±0	18,828
〈ご参考〉特定要因(*2)除き			20,363	20,844	△481	21,765
当期純利益率			7.3%	7.3%		6.2%
為替	米ドル	*3	107円	106円	1円円安	111円
レート	ユーロ	*3	118円	121円	3円円高	128円

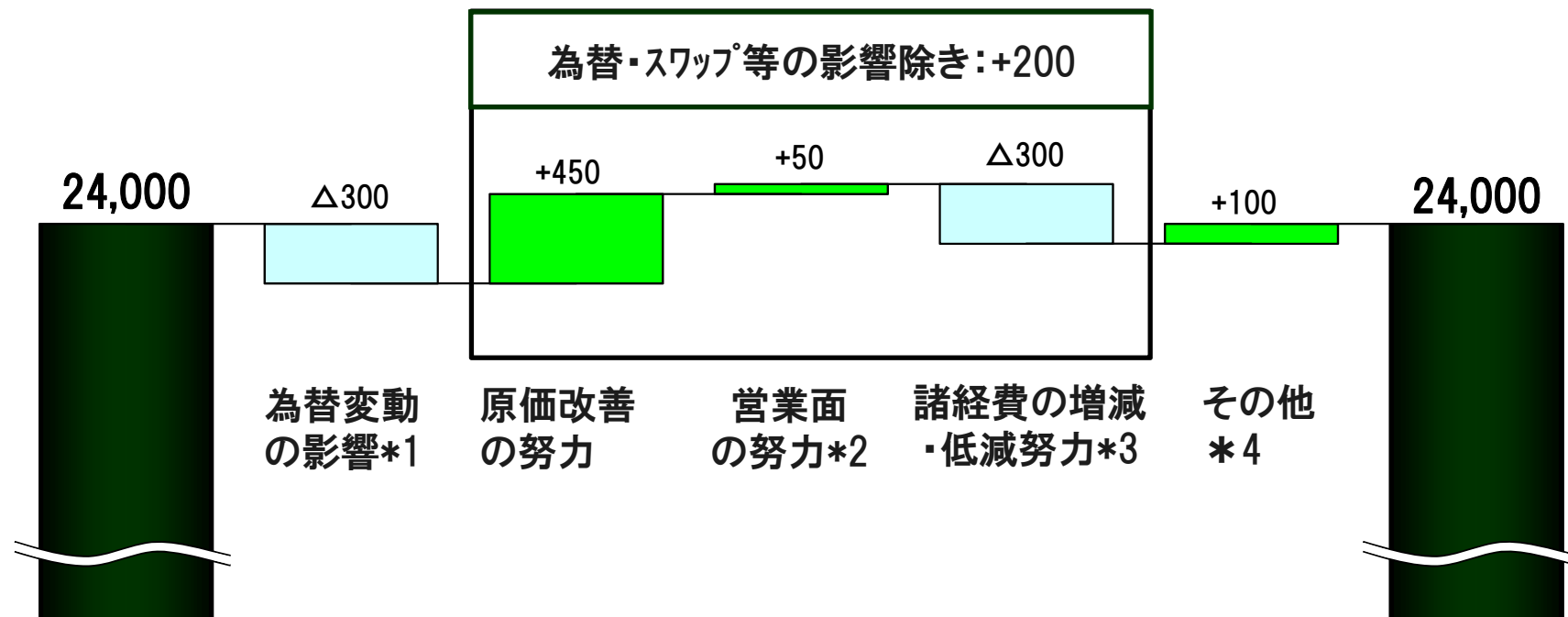
*1 当社株主に帰属する当期純利益

*2 未実現持分証券評価損益が純利益に与えた影響 1,137億円〔今回見通し〕、656億円〔前回見通し〕

*3 第2四半期実績:米ドル109円/ユーロ121円、’19年10月以降の前提為替レート:米ドル105円/ユーロ115円

連結営業利益増減要因(前回差)

(単位:億円)



'20/3期 前回見通し
〔 106円/ドル
121円/ユーロ 〕

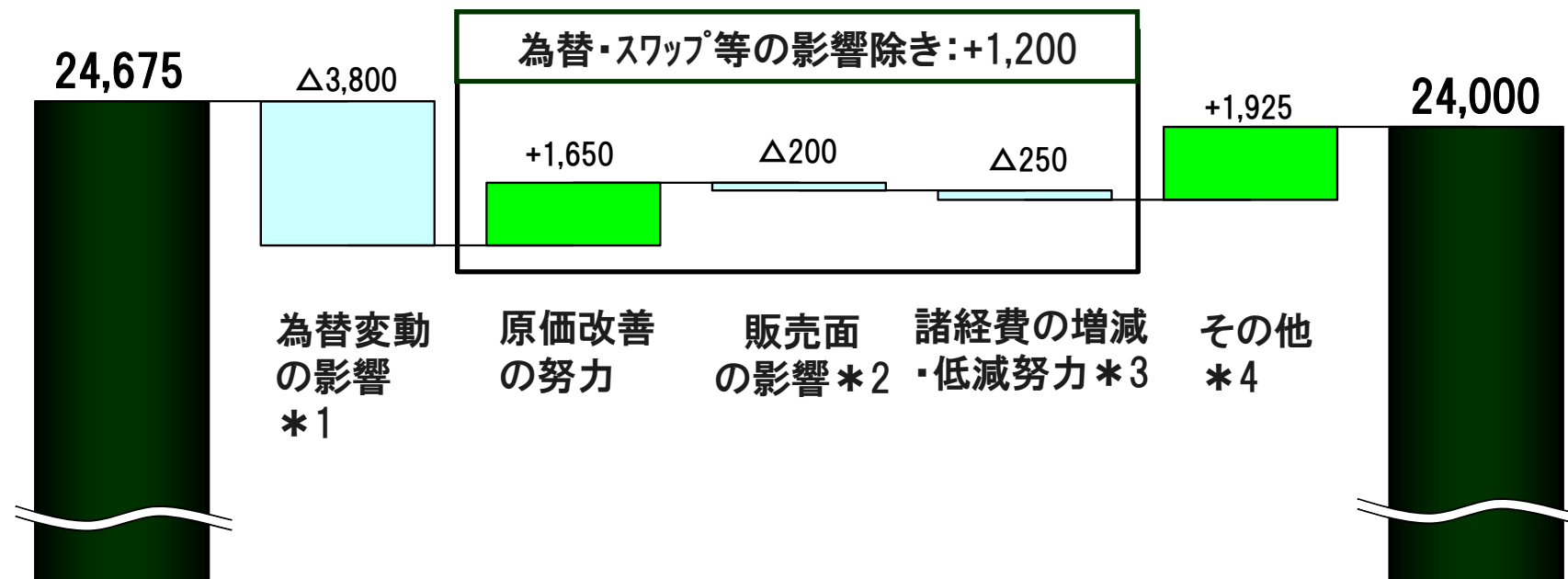
営業利益(±0)

'20/3期 今回見通し
〔 107円/ドル
118円/ユーロ 〕

*1.内訳		*2.内訳		*3.内訳		*4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	△350	海外子会社の	△50	台数・構成	△450	労務費	△50
-米ドル	+200	営業利益換算差		金融事業	+300	減価償却費	±0
-ユーロ	△200	その他	+100	その他	+200	研究開発費	±0
-その他通貨	△350	(外貨建引当の期末換算差ほか)		(販売諸費用ほか)		経費ほか	△250
						スワップ評価損益ほか	+100
						減価償却方法変更	+0

連結営業利益増減要因(前期差)

(単位:億円)



'19/3期実績
〔 111円/ドル
128円/ユーロ 〕

営業利益(Δ675)

'20/3期 今回見通し
〔 107円/ドル
118円/ユーロ 〕

*1.内訳		*2.内訳		*3.内訳		*4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	Δ4,100	海外子会社の	Δ550	労務費	Δ750	スワップ評価損益ほか	+275
-米ドル	Δ1,850	営業利益換算差		減価償却費	Δ450	減価償却方法変更	+1,650
-ユーロ	Δ700	その他	+850	研究開発費	Δ500		
-その他通貨	Δ1,550	(外貨建引当の期末換算差ほか)		経費ほか	+1,450		
		台数・構成	Δ1,250				
		金融事業	+350				
		その他	+700				
		(価格改定ほか)					

競争力強化に向けた取り組み



スズキと資本提携に関する
合意書を締結



米国テキサス工場への
4億ドルの投資を発表



MIRAI Conceptを初公開

8月

9月

10月



カローラ、カローラツーリングを
フルモデルチェンジ



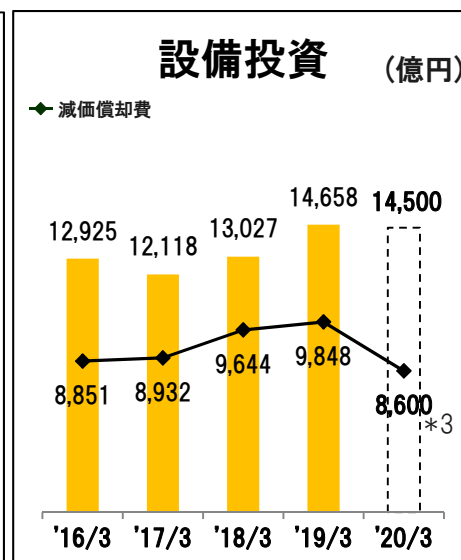
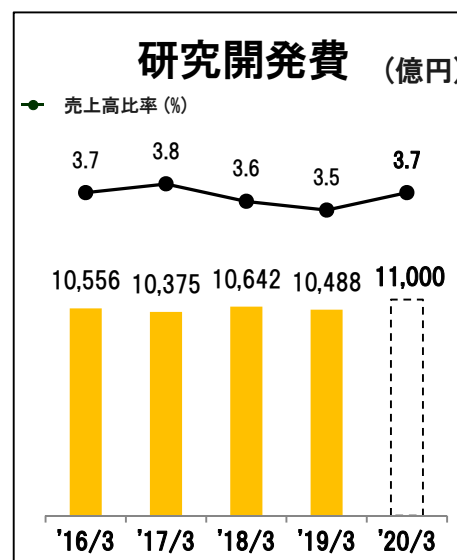
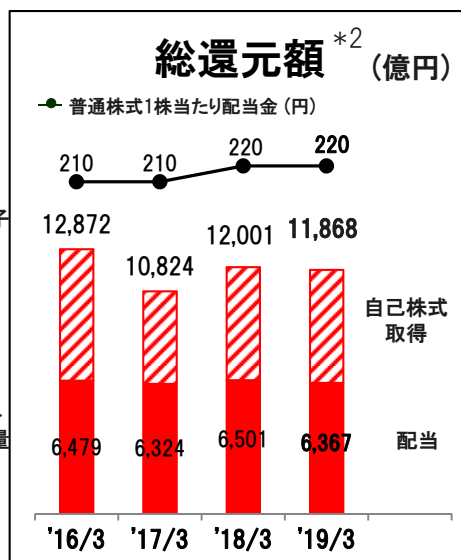
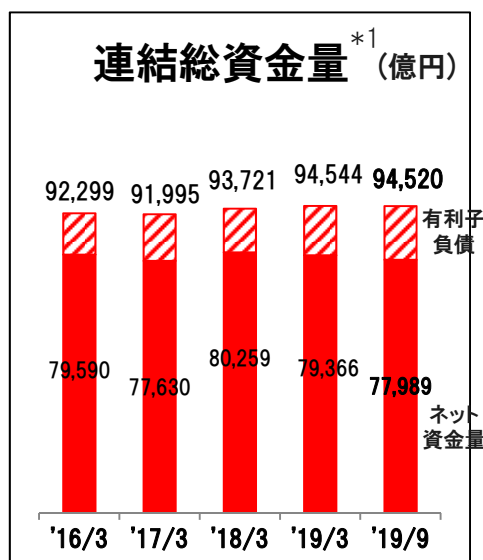
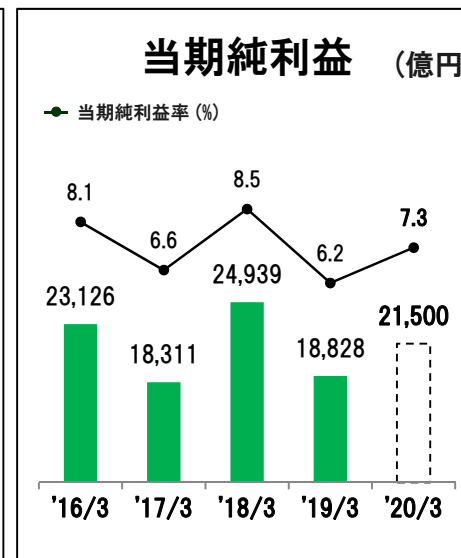
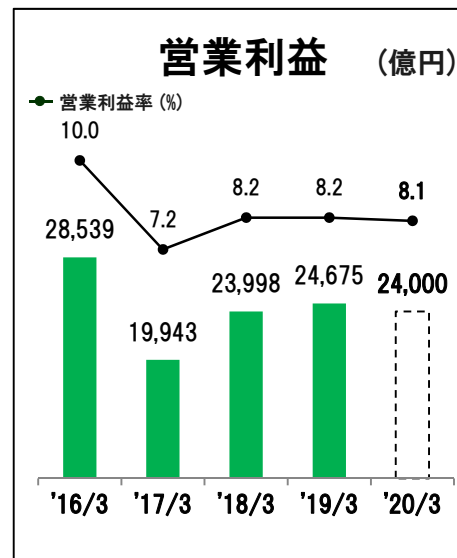
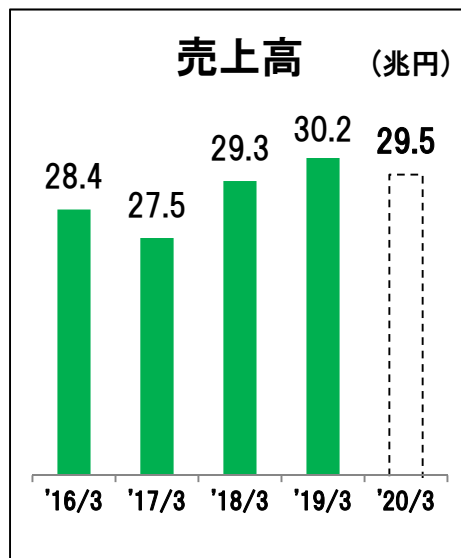
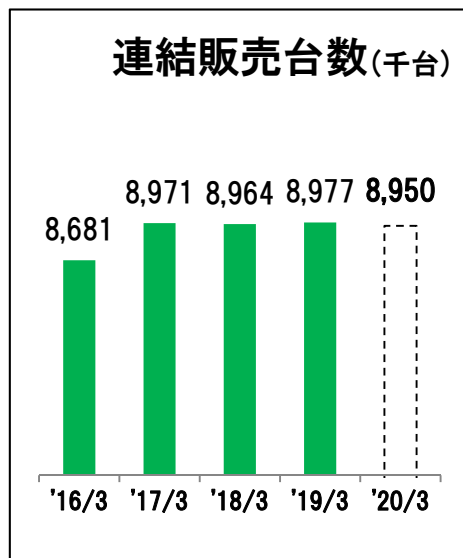
SUBARUと新たな業務資本提携
に合意



東京モーターショー2019

<ご参考>業績推移

☐ 見通し



*1 総資金量：金融事業を除いた、現金及び現金同等物、定期預金、市場性ある負債証券および信託ファンドへの投資

*2 配当には第1回AA型種類株式への配当を含む

*3 '20/3期:償却方法変更の影響(△1,650億円)を含む

＜ご参考＞台数見通し

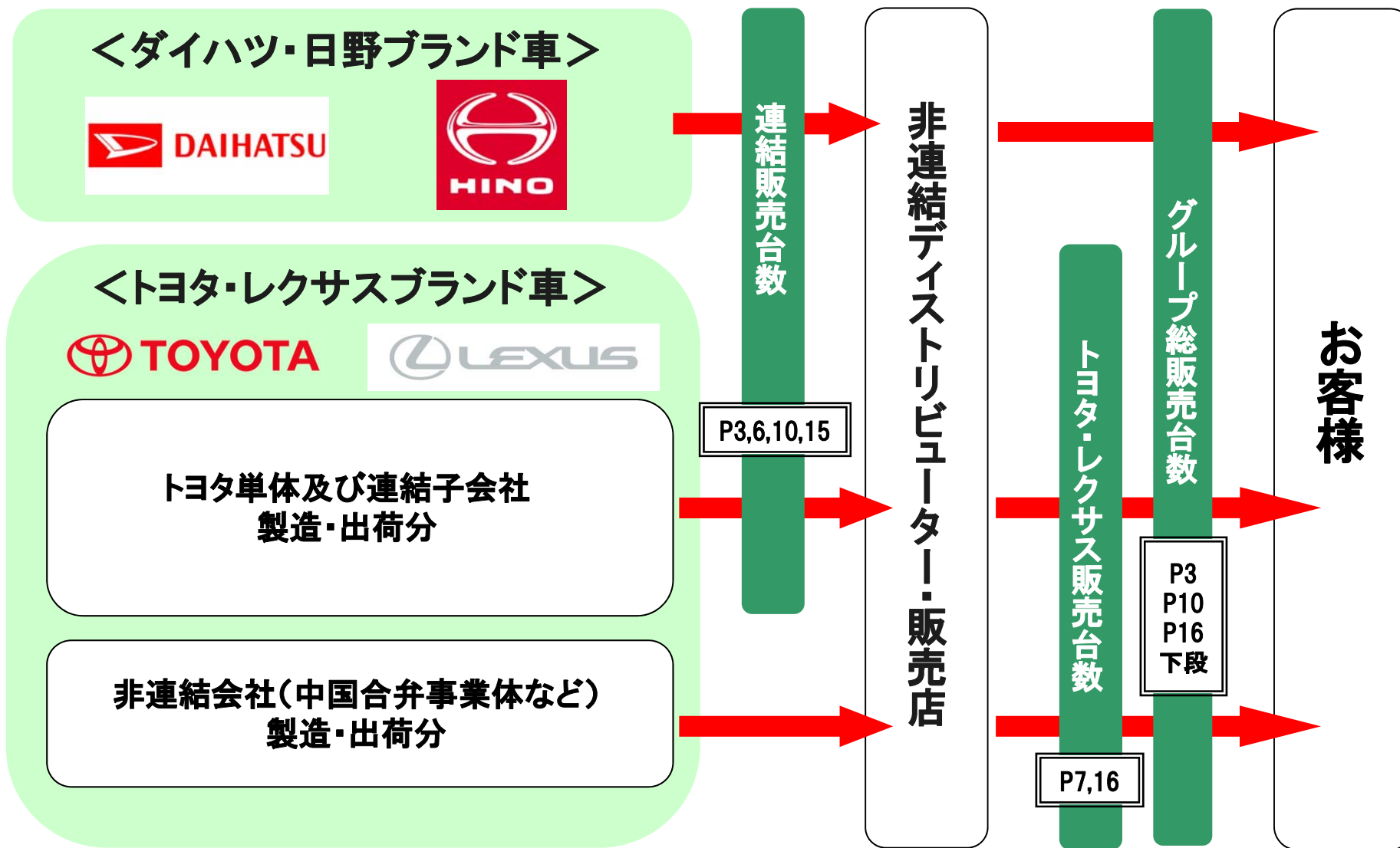
(単位:千台)

			今回 見通し ('19/4-'20/3)	前回 見通し ('19/4-'20/3)	増減
トヨタ・レクサス	生産 *1	国内	3,330	3,330	±0
		海外	5,670	5,710	△40
		合計	9,000	9,040	△40
	販売 (小売) *2	国内	1,580	1,540	+40
		海外	8,100	8,140	△40
		合計	9,680	9,680	±0
	輸出		2,010	2,040	△30
グループ総販売(小売)*2 … ダイハツ、日野ブランド含む			10,700	10,730	△30

*1. 非連結会社による生産台数を含む

*2. 非連結会社による販売台数を含む

<ご参考> 販売台数について



*一部例外的に、上記フローに当てはまらないケース有り